KLP&中日理論言語学研究会 10/9/2011

日本語コピュラ文の統語構造

岸本秀樹
神戸大学

1. はじめに

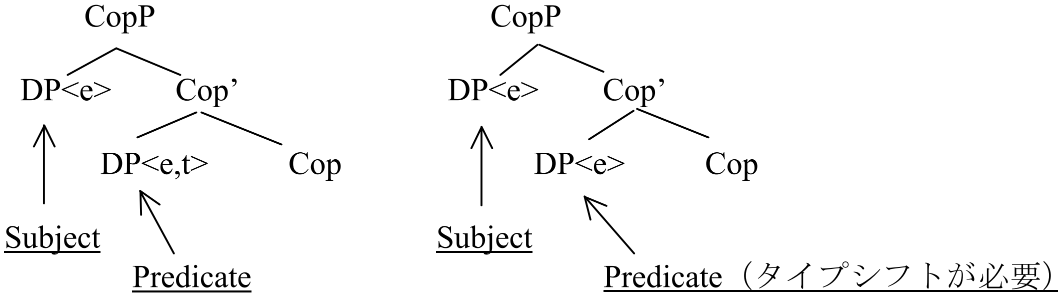
Higgins (1978)の分類

(1) a. John is a very nice person. (Predicational clause)
b. The cause of the accident is drunk-driving. (Specificational clause)
c. That man over there is John Smith. (Identificational clause)
d. The morning star is the evening star. (Identity clause)

(2) a. ジョンは自信過剰だ。(叙述文)
b. 喧嘩の原因はあの指輪だ。(指定文)
c. あそこのその人がジョンだ。(同定文)
d. ジキル博士がハイド氏だ。(同一性文)

2. 構造

(3) a. Predication type b. Equation type



(4) a. 名詞句は，<e>タイプと<e,t>タイプに分かれる。
b. 「が」格でマークされた名詞句は，Spec-TP に位置する。

(5) a. [$_{TP}$ DP-が $_{i}$ [$_{CopP}$ t_i [DP COP]] T]
b. [$_{TP}$ [$_{DP}$ [$_{CP}$ OP$_{i}$ [$_{TP}$ [$_{CopP}$ t_i DP]-が]]]$_{j}$ [$_{CopP}$ t$_{j}$ DP-Cop]] T]

(6) a. ジョンは，とてもいい人だ。
b. *とてもいい人がジョンだ。 (叙述文としては*)
c. スーパーマンは不死身/自信過剰/自暴自棄だ。
b. *不死身/*自信過剰/*自暴自棄がスーパーマンだ。

（その他: 「近眼/近視だ」，「不老不死だ」「行方不明だ」「達者だ」
「幸せ者だ」「貧乏症だ」），

(7) a. ジョンはとても親切だ。
b. *とても親切がジョンだ。

(8) 叙述文
ジョン<e>が，いい人<e,t>だ。

(9) a. ジョンが，いい人でしかない。
b. ジョンしか，いい人でない。

(10) 指定文
a. この事件の主犯<e,t>はあの人<e>だ。
b. あの人<e>がこの事件の主犯<e,t>だ。

(11) a. あの人しかこの事件の主犯ではない。
b. あの人がこの事件の主犯でしかない。

(12) a. *この事件の主犯しかあの人でない。
b. この事件の主犯があの人でしかない。

3. 名詞句のタイプと小節への埋め込み

(13) a. John is my best friend.
b. My best friend is John.

(14) a. I consider John my best friend.
b. *I consider my best friend John.

(15) a. John is smart.
b. I consider John smart.
c. *I consider smart John.

(16) a. John is a genius.
b. *A genius is John.

(17) a. I consider John a genius.
b. *I consider a genius John.

(18) a. ジョンが{親切だ/かっこいい}。
b. (私には)[ジョンが親切に/かっこよく]聞こえる。

(19) a. [ジョンがとてもいい人に]聞こえる。
b. *[とてもいい人がジョンに]聞こえる。

(20) a. [ジョンがいい人にしか]聞こえない。
b. [ジョンしかいい人に]聞こえない。

(21) a. [あの人が喧嘩の原因に]聞こえる。
b. *[喧嘩の原因があの人に]聞こえる。

(22) a. [ジョンがこの事件の犯人にしか]聞こえない。
b. [ジョンしかこの事件の犯人に]聞こえない。

(23) $[_{TP}$ $[_{CopP}$ $NP_{<e>}$ [$NP_{<e,t>}$ COP] *kikoe*] T]

(24) a. あの人はやさしい。
b. やさしいあの人

(25) a. とてもいい教師のジョン
b. *ジョンのとてもいい教師

(26) a. 喧嘩の原因のあの人
b. *あの人の喧嘩の原因

4. 疑似分裂とコピュラ文

(27) a. ジョンがメアリーに会った。
b. メアリーに会ったのはジョンだ。

(28) a. [DP Pred]
b. [[OP_i [… t_i …. Pred]] DP_i cop]

(29) a. 彼は誰に会いましたか？
b. 誰がメアリーに会いましたか？

(30) a. メアリーに会ったのは誰ですか？
b. #誰にあったのがメアリーですか？

(31) *[誰に会ったのがメアリーなのか]彼は知らない。

(32) 叙述文
a. 誰がいい人なのですか？
b. ジョンはどれくらいいい人ですか？

(33) 指定文
a. 喧嘩の原因はだれですか？
b. #いつの喧嘩の原因があの人ですか？

(34) *[いつの喧嘩の原因があの人なのか]彼は知らない。

(35) a. ジョンがメアリーにも会った。
b. [ジョンが会ったのは]メアリーにで(*も)ある。

(36) ジョンはとてもいい人でもある。

(37) a. ?*今回の喧嘩の原因はあの人でもある。
b. あの人が今回の喧嘩の原因でもある。

5. 隠された構造

(38) a. （この工場の）必ずしもすべての人が来なかった。
b. [ここに来たのは]必ずしもすべての人ではない。
c. *[必ずしもすべての人が来たのは]ここではない。

(39) a. この部門の必ずしもすべての責任者がいいひとではない。
b. この部門の責任者は，必ずしもいいひとではない。

(40) a. ジョンは，この工場の必ずしもすべての部門の責任者ではない。
b. *この工場の必ずしもすべての部門の責任者はジョンではない。

6. 同定文と同一性文

(41) a. That man over there is John Smith.
b. It is that man over there that is John Smith.
c. *It is John Smith that that man over there is.

(42) a. とてもいい人なのは，彼のお兄さんです。
b. *彼のお兄さんなのは，とてもいい人です。

(43) a. 喧嘩の原因だったのは，あの人です。
b. *あの人だったのは，喧嘩の原因です。

(44) 同定文
a. むこうにいるあの人はジョンです。
b. ジョンはむこうにいるあの人です。

(45) a. ジョンなのはむこうにいるあの人です。
b. *むこうにいるあの人なのはジョンです。

(46) a. #むこうにいるどの人が，ジョンですか？
b. むこうにいるあの人は，誰ですか？

(47) a. ジョンは，むこうにいるどの人ですか？
b. #誰が，むこうにいるあの人ですか？

(48) a. *[むこうにいる誰がさっき話題になったジョンなのか]彼には
わからない。
b. *[さっき話題になった誰がむこうにいる人なのか]彼には
わからない。

(49) a. [むこうにいるあの人がさっき話題になった誰なのか]彼にはわから
ない。
b. [さっき話題になったあの人がむこうにいる誰なのか]彼にはわからない。

(50) 同一性文
a. ジキル博士は{だれ/どんな人}ですか？
b. {だれ/どんな人}がハイド氏ですか？

(51) a. ハイド氏は{だれ/どんな人}ですか？
b. {だれ/どんな人}がジキル博士ですか？

7. まとめ

(52) 叙述文
[$_{CP}$ [$_{DP}$彼の兄は] [$_{DP}$ 自信過剰]-だ]
(53) 指定文
a. [$_{CP}$ [$_{DP}$ [$_{CP}$ OP_i [t_i 火事の原因]]は] [$_{DP}$火の不始末$_i$]-だ]
b. [$_{CP}$ [$_{DP}$ 火の不始末が] [$_{DP}$火事の原因]-だ]
(54) 同定文
a. [$_{CP}$ [$_{DP}$ [$_{CP}$ OP_i [あの人 t_i COP]]は] [$_{DP}$ 話題になっていたジョン]$_i$-だ]
b. [$_{CP}$ [$_{DP}$ [$_{CP}$ OP_i [t_i 話題になっていたジョン COP]]は] [$_{DP}$あの人]$_i$-だ]
(55) 同一性文
[$_{CP}$ [$_{DP}$ジキル博士は] [$_{DP}$ハイド氏]-だ]

References

Declerck, Renaat (1988). *Studies on Copular Sentences, Clefts and Pseudo-Clefts*. Leuven: Leuven University Press.

Dikken, Marcel den (2005). Specificational copular sentences and pseudoclefts. In Martin Everaert and Henk van Riemsdijk (eds.) *The Blackwell Companion to Syntax*, pp. 292-409. Oxford: Blackwell.

Dikken, Marcel den (2006). *Relators and Linkers: The Syntax of Predication, Predicate Inversion, and Copulas*. Cambridge, MA: MIT Press.

Hasegawa, Nobuko (1996). On the word order of copular sentences. 『言語科学研究』 2: 1-18. 神田外語大学.

Heggie, Lorie (1988). *The Syntax of Copular Structures*. Ph.D. dissertation, University of Southern California.

Heycock, Caroline (1991). *Layers of Predication: The Non-Lexical Syntax of Clauses*. Ph.D. dissertation, University of Pennsylvania.

Heycock, Caroline, and Anthony Kroch. (1999). Pseudocleft connectedness: Implications for the LF interface level. *Linguistic Inquiry* 16, pp. 365-397.

Higgins, Roger (1979). *The Pseudo-Cleft Construction in English*. New York: Garland.

今田瑞穂 (2011).「名詞述語文の焦点の質的特性—主語焦点と述語焦点—」『日本語文法』11 (1), pp. 122-138.

上林洋二 (1988). 「指定文と措定文—ハとガの一面」『文藝言語研究・言語編』14, pp. 57-74. 筑波大学.

Kishimoto, Hideki (2009). “Topic prominency in Japanese.” *The Linguistic Review* 26, pp. 465-513.

Mikkelsen, Line (2005). *Copular Clauses: Specification, Predication and Equation*. Amsterdam: John Benjamins.

Moro, Andrea (1997). *The Raising of Predicates*. Cambridge: Cambridge University Press.

Niimura, Masato (2007). A syntactic analysis of copular sentences. *Nanzan Linguistics, Special Issue* 3.1, pp. 203-237.

西山佑司 (2003). 『日本語名詞句の意味論と語用論』 ひつじ書房.

奥津敬一郎 (1976). 『生成日本文法論—名詞句の構造』大修館書店.

奥津敬一郎 (1978). 『「ボクハ　ウナギダ」の文法—ダとノ—』くろしお出版.

Partee, Babara (1986). “Ambiguous pseudoclefts with unambiguous Be.” *NELS XVI*, pp. 354-366.

Rothstein, Suzan (2001). *Subjects and Their Predicates*. Dordrecht: Kluwer.

砂川有里子(2002).「日本語コピュラ文の構造と談話機能」上田博人(編)『シリーズ言語科学５：日本語学と言語教育』pp. 39-70. 東大出版会

Williams, Edwin (1983). “Semantic vs. syntactic categories.” *Linguistics and Philosophy* 6, pp. 423-446.

Williams, Edwin (1994). *Thematic Structure in Syntax*. Cambridge, MA: MIT Press.